

■副会長/小口 泰幸 ■幹事/川村 総一郎

◆司会=五味 武嗣S A A

◆ゲストビジター=本日はいらっしゃいません

◆出席報告

本日	56.0%	22名欠席
前回訂正	72.0%	14名欠席

◆ラッキーナンバー=No.6 三澤 郁馬君

◆ニコニコボックス=●川村総一郎君=小林会員卓話よろしくお願ひ致します。●玉本広人君=小林会員新人会員卓話よろしくお願ひ致します。●小口武男君=新しく諏訪圏ものづくり推進機構の理事長となり新しい年度がスタートしました。これからよろしくお願ひ致します。●平林明君=ゴルフ例会優勝しましたまぐれです。有難うございました。●小口泰幸君=結婚記念日にお花を頂き有難うございました。●五味武嗣君=結婚記念日のお花を頂いて。●三澤郁馬君=ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・加藤明博君(小口泰幸副会長代読)=先日一人でお酒を飲んでいた際にふっと思っただけのお話します。歳をとると色々な事を知って考えるようになってしまい、昔より純粋さが無くなった様に思われます。今日は純粋な人についてです。では純粋な人とはどのような人を指すのでしょうか。まずは人を疑わない人。次に総じて優しい人。次に視野が広い人。最後に素直な人。純粋な人は人のために動け、有難う、“ごめんね”が素直に言えて、嘘をつかず、真面目に行動が出来ると方だと思います。純粋な人は、小さなことにも申し訳なさを感じ、小さな事にも感謝を感じ、小さな事にも幸せを感じられる人。私は何かをやりながら確信が持てない時に思い浮かぶことがあります。わたしはうまくやれているのだろうか。ずっとこのやり方で良いのだろうか。私は間違っているのではないだろうか。いつまでやらなければならないのだろうか。こんな風に突然孤独になる時があります。しかしこんな時、純粋な人が傍に居てくれたら、ひどく心が安まるだろうと思います。

◆幹事報告・川村総一郎君=5月26日3119回例会幹事報告

①本日の例会はクラブフォーラム「新会員卓話」です。小林会員後ほど宜しくお願ひ致します。②地区よりポリオプラスソサエティの案内が来ております。是非ご賛同お願ひ致します。③新入会員の照会がありました。手長神社宮司の前島正様です。先週の理事会でお諮りいただいた後、職業選考、職業分類各委員会に勧告ご了承頂いております。入会に意義のある会員は書面にて申し立てを7日以内に理事会宛に提出してください。④北川会員に3回目のポール・ハリス・フェローのバッジが届いております。後ほどセレモニーで授与式を行います。

◆委員会報告・親善・クラブ親睦善治直樹副委員長=6月18日日曜日に実施するバスハイクのご案内です。チケットの手配から30日に締め切らせて頂きます。まだお返事頂いていない方は本日私にお伝え下さい。

●幹事川村総一郎君=北川会員に3回目のポール・ハリス・

フェローのバッジが届いております、北川会員おめでとうございます。

◆セレモニー●ロータリー財団
ポール・ハリス・フェロー北川和彦君(3回目)



◆クラブフォーラム「新会員卓話」小林正史君=こんにちは。中部電力パワーグリッドの小林です。昨年の9月に入会させて頂きました。本日はご覧の3つについてお話しをさせて頂きます。自己紹介を改めてさせて頂きます。名前は小林正史です。1968年生まれの54歳です。

今年55歳になる年になります。出身地は木曾郡大桑村というところ。自宅は安曇野市豊科というところに軒家を構えました。毎日電車で下諏訪町まで1時間30分かけて通勤しております。家族は妻と女の子2人で子供は家を出ていますので、現在は妻と2人暮らしをしています。趣味は映画鑑賞、読書、コロナ禍になってやっていますが、ソフトバレー、コロナ禍になっても盛んなバイクツーリングです。高校を卒業してすぐに就職しました。友達のほとんどが愛知県のトヨタ自動車関係の会社に就職を希望していたため、私も名古屋に本社があるという理由で「中部電力株式会社」に決めました。しかし最初の研修で4か月間だけ、愛知県にいただけで、後は会社生活のほとんどを長野県で勤務をしています。サラリーマン社会の「あるある」なのですが、転勤は多く、私も入社してから16回転勤を繰り返して諏訪営業所に来ました。自己紹介の一部として趣味の話を少しだけさせて下さい。一番の趣味はバイクです。今はバイクでツーリングをすることです。私の愛車はカワサキのニンジャZX14Rというバイクです。排気量1400ccの大型バイクに乗っています。次に中部電力パワーグリッド(株)という会社について少しだけ紹介させて頂きます。元々は皆さんご存知の中部電力株式会社です。電力の完全自由化が始まり、2020年に法律により電力会社は、電気を販売する会社(中部電力ミライズ)、販売事業会社と電気を公平に送る会社、送配電事業会社(中部電力パワーグリッド)に分社をしなさいということになりました。中部電力パワーグリッド(株)は中部電力の電気を公平に送る会社、送配電事業会社ということになります。送配電事業会社である中部電力パワーグリッド(株)の主な役割は3つです。需給変動に対する調整力や発電機の故障等に備えた予備力を調達し中部エリアの供給力を確保する。需給構造の変化に対応した、安定・安価な送配電網の建設・維持・運用、中立性・公平性を確保。電気の流れで説明をしますと、火力や水力や太陽光等の遠くの発電所で作られた電気を、送電線、変電所・配電線を通して、工場やお客さまのご家庭まで安定してお届けするのが当社の使命です。諏訪営業所の供給エリアは諏訪市、茅野市、岡谷市、下諏訪町、富士見町、辰野町、原村です。新しく電気を使用したい、もっと電気を使いたい、電柱移設してほしい等のお申込みを頂いたら、どのように電気を送るか現地に行って、電柱の位置や電線の種類や長さを決めます。また電気が停まらないように、電柱に施設されている電線、電線支持碍子、機器に不良が無いかを1本1本点検しています。電柱等の設備の確認は、



5年に一回、必ず全部の設備を確認しますが、電気に関わる様々な申込み、相談に日々対応しています。中部電力パワーグリッド(株) 諏訪営業所では宿直体制により、365日、24時間、電気が停まったらいち早く復旧できるようにしています。諏訪営業所だけでなく、中部電力パワーグリッド(株)の他の供給区域で、大規模な災害や広く電気が停まることがあれば諏訪営業所からも応援に行きます。同様に全国、他の電力会社で大規模な災害があれば、応援に行くこともあります。まとめますと「中部電力パワーグリッド」という会社は、良質な電気を安全・安価で安定的にお届けをする会社です。次は日本におけるエネルギー情勢についてです。2011年の東日本大震災以降、日本におけるエネルギー情勢が大きく変化しています。「エネルギー基本計画」は、エネルギー需給に関する政策について、政府が中長期的な基本方針を示したものです。2021年10月に政府が示した「第6次エネルギー基本計画」では、「2050年カーボンニュートラルの実現」、「2030年度の温室効果ガス排出46%削減(2013年度比)」という目標の達成に向けた、2030年度の電源構成(発電電力量構成比)が示されました。日本は化石燃料のほとんどを輸入しているため、他国に比べエネルギー自給率が低くなっています。2011年の東日本大震災後、原子力発電による発電量が徐々に減少し、2014年度は原子力の発電量がゼロになったこともあり、エネルギー自給率は過去最低の6.3%に低下しました。それ以降、再生可能エネルギーなどの導入や原子力発電所の再稼働が進み、エネルギー自給率は上昇傾向にあります。足元では燃料価格や再生可能エネルギー発電促進賦課金の影響によって、電気料金が上昇しています。ご覧の資料では2021年度までしかありませんが、2022年度はさらに上がっています。分かりにくいので、実際の電気料金の計算式にあてはめてみます。電気料金は基本料金と使った分に単価をかけて算出する、電力量料金を足しこむ。さらに再生可能エネルギー発電促進賦課金が足される仕組みになっています。燃料費調整額も再生可能エネルギー発電促進賦課金も、使った分に単価をかけて算出されています。燃料費調整額は簡単に言うと、燃料価格に連動して電気料金が決まるということです。再生可能エネルギー発電促進賦課金を簡単に言うと、太陽光発電で売電した費用を電気を使用している人が負担しているということです。このような要因が電気料金の高騰の一部と言えます。石炭やLNGといった化石燃料を使う火力発電は、発電の過程でCO₂を排出します。一方、太陽光発電、風力発電といった再生可能エネルギーや、ウラン燃料を利用する原子力発電は、発電の過程でCO₂を排出しません。カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を全体でゼロにすることです。2020年10月に、日本政府は2050年までにカーボンニュートラルを目指すと言いました。震災以降、原子力発電の停止により火力発電の割合が増加したため、CO₂の排出量も増加しましたが、現在は減少傾向にあります。カーボンニュートラルの実現に向け、さらなるCO₂排出量の削減が求められます。再生可能エネルギーについてです。発電電力量を見ると、直近の再生可能エネルギーの比率は18%(2019年度)です。エネルギー基本計画において、再生可能エネルギーは「主力電源化を徹底し、最大限の導入を促す」と位置付けられています。日本の太陽光発電の導入量は2019年度末時点で5,901万kW、風力発電は2019年12月末時点で392.3万kWとなっ

ています。日本の再生可能エネルギーの導入量は世界でも上位となっています。電気を安定してご利用いただくには、つかう量(需要)とつくる量(供給)が同じ時に同じ量になっていなければなりません。2018年の北海道胆振東部地震では、最初に地震の揺れで1つの大きな火力発電所が停止したため、発電と消費のバランスがくずれ、他の発電所も次々と発電停止となり、北海道全体がブラックアウトとなりました。火力発電についてですが、東日本大震災後、原子力発電所が停止、原子力発電による電力供給を補うため、火力発電の比率が拡大しました。エネルギー基本計画において、火力発電はカーボンニュートラルの実現に向けて「できる限り引き下げる」と位置付けられています。火力発電は、今後も再生可能エネルギーを補う調整力などの役割を担うことから、今後も不可欠な電源です。カーボンニュートラルの実現に向け、非化石エネルギーを活用して生成した水素やアンモニアによる火力発電など新技術開発を進めていくことが必要です。次に原子力発電についてです。東日本大震災後、原子力発電所が停止しました。その後新規基準適合性審査に合格した発電所から順次再稼働しています。エネルギー基本計画において、原子力発電は「安全性の確保を大前提に、重要なベースロード電源」と位置付けられています。2022年7月時点で、10基が再稼働、7基が原子炉施設設置変更許可済みという状況です。まとめになります。地球温暖化防止のため2050年ゼロカーボンは達成しなくてはなりません。そのためには、再生可能エネルギーを増やしていくことが重要です。しかし、安定性に劣る再生可能エネルギーで全て賄うのは無理があります。また環境対策と並行して経済を活性化・発展させていくこともとても重要だと考えます。環境対策にはお金がかかります。また高効率な蓄電池などの新たな新技術を開発するにもお金がかかりますので、経済が元気でなければできません。そのためには、経済を支える安定した電力供給が欠かせません。資源に乏しく、島国である日本は、特定の電源に依存するのではなく、様々な電源をバランス良く、使っていくエネルギーミックスが必要です。またゼロカーボン実現には、高効率な蓄電池や、超電導・核融合発電といった夢の新技術を開発していくことも必要だと思います。終始、堅い話して退屈な内容であったかと思います。私たちはくらしに欠かせないエネルギーをお届けすることで社会の発展に貢献する。そのことが奉仕の理念に繋がるのかなと思います。以上で、卓話を終了します。ご静聴、有難うございました。

◆今後の例会日程

6/2(金)	クラブ協議会次年度に向けて会長・幹事・役員
6/9(金)	創立記念例会「創立66周年」
6/18(日)	家族例会「バスハイク東京ドーム巨人対楽天」
6/23(金)	役員挨拶「退任役員挨拶」